

第 62 回 幹 事 会

平成 20 年 8 月 28 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

- 資料 1 議事次第
- 資料 2 出席者一覧
- 資料 3 非公開審議事項
- 資料 4 第60、61回議事要旨
- 資料 5 諸報告
- 資料 6 審議事項
- 資料 7 報告「大学法学部1年生の歴史素養調査と法史学関連科目の開講状況調査」
- 資料 8 提言「公文書館法とアーキビスト養成」
- 資料 9 提言「出生前・子どものときからの生活習慣病対策」
- 資料 10 提言「看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える」
- 資料 11 報告「農業経済学分野における研究成果の評価について」
- 資料 12 提言「狂犬病対策システムの構築に向けて」
- 資料 13 提言「保健医療分野における政府統計・行政資料データの利活用について
—国民の健康と安全確保のための基盤整備として—」
- 資料 14 提言「子どもの身体活動・スポーツガイドラインの策定」
- 資料 15 報告「感覚器医学ロードマップ 改訂第二版感覚器障害の克服と支援を目指す10年間」
- 資料 16 提言「理工系大学院の新しい制度設計に向けて—科学技術を担うべき若い世代のために—」
- 資料 17 提言「学校教育を中心とした環境教育の充実に向けて」
- 資料 18 報告「数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割とその推進の必要性—不確実性とリスクに挑む科学—」
- 資料 19 提言「物性物理学・一般物理学分野における学術研究の質と量の向上のために」
- 資料 20 提言「人類の持続性確保に貢献するフロンティア人工物科学技術の推進」
- 資料 21 提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて—成育空間の課題と提言—」
- 資料 22 提言「数理科学における研究と若手養成の現状と課題」
- 資料 23 提言「医療領域に従事する『職能心理士（医療心理）』の国資格法制の確立を」
- 資料 24 提言「今後のライフサイエンス・ヘルスサイエンスのグランドデザイン」
- 資料 25 提言「「事故による子どもの傷害」の予防体制を構築するために」
- 資料 26 提言「変貌する農業と水問題—水と共生する社会の再構築へ向けて—」
- 資料 27 報告「グローバル化時代における地域研究の強化へ向けて」

資料 2 8 提言「専門薬剤師の必要性和今後の発展－医療の質の向上を支えるために－」

参考 1 今後の予定

参考 2 日本学術会議平成 2 1 年度概算要求額

第 6 2 回幹事会議事次第

日時 平成20年8月28日(木) 13:00～

議題

I 非公開審議事項

1 委員会関係

- 提案1 連携会員候補者の決定
- 提案2 水・食料と持続可能な社会委員会の設置期間の延長
- 提案3 大阪大学サイバーメディアセンター運営委員会の委員の推薦
- 提案4 朝日賞受賞候補者の推薦

2 その他

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 提言等

- 提案5 報告「大学法学部1年生の歴史素養調査と法史学関連科目の開講状況調査」
- 提案6 提言「公文書館法とアーキビスト養成」
- 提案7 提言「出生前・子どものときからの生活習慣病対策」
- 提案8 提言「看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える」
- 提案9 報告「農業経済学分野における研究成果の評価について」
- 提案10 提言「狂犬病対策システムの構築に向けて」
- 提案11 提言「保健医療分野における政府統計・行政資料データの利活用について
一国民の健康と安全確保のための基盤整備として」
- 提案12 提言「子どもの身体活動・スポーツガイドラインの策定」
- 提案13 報告「感覚器医学ロードマップ 改訂第二版感覚器障害の克服と支援を目指す10年間」
- 提案14 提言「新しい理工系大学院博士後期課程の構築に向けて一科学技術を担うべき若い世代のために」
- 提案15 提言「学校教育を中心とした環境教育の充実に向けて」
- 提案16 報告「数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割とその推進の必要性一不確実性とリスクに挑む科学」
- 提案17 提言「物性物理学・一般物理学分野における学術研究の質と量の向上のために」
- 提案18 提言「人類の持続性確保に貢献するフロンティア人工物科学技術の推進」
- 提案19 提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて一成育空間の課題と提言」
- 提案20 提言「数理科学における研究と若手養成の現状と課題」
- 提案21 提言「医療領域に従事する『職能心理士(医療心理)』の国資格法制の確立を」
- 提案22 提言「今後のライフサイエンス・ヘルスサイエンスのグランドデザイン」
- 提案23 提言「事故による子どもの傷害」の予防体制を構築するために」
- 提案24 提言「変貌する農業と水問題一水と共生する社会の再構築へ向けて」
- 提案25 報告「グローバル化時代における地域研究の強化へ向けて」
- 提案26 提言「専門薬剤師の必要性和今後の発展一医療の質の向上を支えるために」

2 国際会議関係

- 提案27 平成20年度代表派遣(10～12月分)
- 提案28 ワールド・ナレッジ・ダイアログ(World Knowledge Dialogue) シンポジウムへの会員派遣

3 シンポジウム等

- 提案29 健康・スポーツ科学関連学術連合設立記念シンポジウム
- 提案30 我が国の子どもの成育環境の改善にむけて一成育空間の課題と提言(シンポジウム)
- 提案31 自由主義レジームの多様性と変容の政治過程(シンポジウム)
- 提案32 現代史認識と歴史教育PART II—沖縄から考える(シンポジウム)
- 提案33 日本学術会議九州・沖縄地区会議地域フォーラム(シンポジウム)

4 後援

- 提案34 国内会議
- 提案35 国際会議

5 その他

- 提案36 第20期における分科会活動の総括結果について

IV その他

資料2

第62回幹事会（8月28日）出席者一覧

副会長	鈴木 興太郎	(会長代行)
-----	--------	--------

副会長	土居 範久
-----	-------

第一部	部長	広渡 清吾
	幹事	江原 由美子
	幹事	小林 良彰

第二部	部長	唐木 英明
	副部長	北島 政樹
	幹事	鷺谷 いづみ

(冒頭欠席)

第三部	部長	海部 宣男
	副部長	小林 敏雄
	幹事	河野 長
	幹事	大垣 眞一郎

事務局長	竹林 義久
------	-------

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 会長談話	1
3 審議付託等	2
4 賞等の推薦	2
5 人事	2
第 2 各部・各委員会報告	
1 部会の開催とその議題	2
2 機能別委員会の開催とその議題	3
3 分野別委員会の開催とその議題	3
4 課題別委員会の開催とその議題	8
5 記録	8
6 サイエンスカフェの開催	9
7 総合科学技術会議報告	9
8 慶弔	9

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
8 月 23 日 (土)	第 21 回国際結晶学連合会議 開会式	土居副会長
8 月 25 日 (月)	新旧科学技術政策担当大臣との懇談会	竹林局長、綱木次長

2 会長談話

代理懐胎を中心とする生殖補助医療に関する課題についての会長談話
(－海外における日本人の依頼による代理出産の事例に関連して－)

日本学術会議は、代理懐胎を中心とする生殖補助医療をめぐる諸問題について、法務大臣と厚生労働大臣からの審議依頼（平成 18 年 11 月）に基づき、法学、医学、生命倫理等の専門家からなる委員会を設けて 1 年以上かけて検討を進め、本年（平成 20 年）4 月に、同審議依頼に対する両大臣への回答及び「代理懐胎を中心とする生殖補助医療の課題－社会的合意に向けて－（日本学術会議 生殖補助医療の在り方検討委員会）」と題する対外報告をとりまとめました。

対外報告「代理懐胎を中心とする生殖補助医療の課題－社会的合意に向けて－」
(平成 20 年 4 月 8 日 日本学術会議 生殖補助医療の在り方検討委員会)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/seishoku/index.html>

今般、海外における日本人の依頼による代理出産に関する報道がなされております。日本学術会議は個別の問題についてのコメントを差し控えますが、ここで発生した事例は、上記対外報告で指摘した代理懐胎に関する諸問題及びそれらに対する提言の内容と直接関連しているものと考えます。言うまでもなく、最優先されるべきは子供たちの福祉であり、その点から懸念されるのは、報道された子供だけでなく、報道されていない事例で生まれてくる子供たちのことです。

日本学術会議としては、生殖補助医療に関する課題について、それが個人の生命倫理観や家族観等にかかわる深淵かつ難しい問題ではあることを十分理解しつつも、改めて本年 4 月に取りまとめた対外報告における提言を参考としていただき、国民の間で幅広く議論が行われ、早期に社会的な合意がなされ、法制面での整備を含め、国を挙げて問題解決に向けて動き出すことを期待します。

平成 20 年 8 月 15 日
日本学術会議会長
金 澤 一 郎

3 審議付託等

件 名	申請者	審議付託先
第 34 回全国語学教育学会年次国際大会の後援	全国語学教育学会長	第一部
現代を見る目、めざす未来～食と健康のコミュニケーションの後援	日本科学技術ジャーナリスト会議会長	第二部
けいはんな光医療産業バレー拠点創出シンポジウムの後援	けいはんな新産業創出・交流センター長	第二部
日本体操学会第 8 回大会の後援	日本体操学会長	第一部、第二部
「科学技術と産業」国際シンポジウム 2008 の後援	日本貿易振興機構理事長	第二部、第三部
第 88 回慶應医学会総会シンポジウムの後援	慶應医学会会長	第二部

4 賞等の推薦

件 名	照会先	備考
朝日賞	各部	推薦あり
A B E L 賞	各部	推薦なし
第 20 回福岡アジア文化賞	各部	照会中

5 人事

事務局

参事官（審議第二担当） 旧：信濃 正範（平成 20 年 8 月 1 日付）
新：渡辺 泰司（平成 20 年 8 月 1 日付）

第 2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第一部 拡大役員会（第 15 回）（7 月 24 日）

- ①「日本の展望－学術からの提言」について
- ②人文社会科学と学術分科会について ③その他

(2) 第三部会（第 13 回）（8 月 11 日～12 日）

- ①第 20 期における分科会活動の総括について
- ②連携会員の選考状況について ③理数系教育問題について
- ④若手・人材育成問題検討分科会の報告書について
- ⑤「日本の展望」への取り組みについて
- ⑥大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会について
- ⑦第 21 期の分野別委員会委員候補者について

2 機能別委員会の開催とその議題

(1) 選考委員会 (第23回) (8月21日)

- ①連携会員候補者の選考
- ②選考委員会における21期に対する申し送り事項について
- ③その他

(2) 選考委員会連携会員候補者選考実務分科会 (第2回) (7月28日)

- ①連携会員候補者の選考
- ②その他

(3) 科学者委員会 (第37回) (7月14日)

- ①日本学術会議協力学術研究団体の指定について
- ②平成20年度日本学術会議主催公開講演会 (第3、4回) について
- ③提言 我が国の未来を創る基礎研究の支援充実を目指して (案) について
- ④提言 学術分野における男女共同参画のために (案) について
- ⑤その他

(4) 学協会の機能強化方策検討等分科会・学協会の公益機能検討等小分科会合同
拡大役員会議 (第1回) (7月29日)

- ①新法人法への対応シンポジウム
- ②その他

●地区会議の構成員の変更

平成19年9月20日開催の日本学術会議第42回幹事会において決定された「日本学術会議地区会議運営要綱」の「第5」の規定に従い、勤務先の変更等により、次に掲げる者が所属地区の変更を申し出たため、これを認めることとする。

氏 名	旧所属地区	新所属地区
西 敏夫 (連携会員)	関東地区	東北地区

(5) 科学と社会委員会 科学力増進分科会 (第20回) (7月30日)

- ①報告書 (案) の審議 ②サイエンスアゴラについて
- ③サイエンスカフェについて
- ④第16回かがわけん科学体験フェスティバルの共催について ⑤その他

3 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) 史学委員会 アジア研究・対アジア関係に関する分科会
(第6回) (7月24日)
①第20期の総括
- (2) 社会学委員会 ジェンダー学分科会 (第8回) (7月29日)
①第20期分科会活動のふりかえり／今後の課題 ②その他
- (3) 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会 (第5回) (7月29日)
①道徳教育における宗教的情操概念の変遷と実態について
②シンポジウム打ち合わせ ③次期への移行手続きについて ④その他
- (4) 経営学委員会 経営リテラシー分科会 (第7回) (7月31日)
①“提言”の今後の対応について ②その他
- (5) 史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会 (第8回) (7月31日)
①今期活動の総括について
- (6) 社会学委員会 社会理論分科会 (第6回) (8月2日)
①シンポジウム「公正な社会を求めてーグローバル化する世界のなかで」について
②本分科会の第20期の活動の総括と残された課題 (意見交換とまとめ)
③その他
- (7) 心理学・教育学委員会 脳と意識分科会 (第3回) (8月2日)
①分科会の今年の計画について ②次回シンポジウムについての協議
②对外報告に関する日本心理臨床学会との意見交換 ③その他
- (8) 心理学・教育学委員会 心理学教育プログラム検討分科会
(第8回) (8月4日)
①对外報告に対する文部科学省の意見を受けての分科会のあり方について
②その他
- (9) 地域研究委員会 人文・経済地理と地域教育 (地理教育を含む) 分科会
(第11回) (8月5日)
①20期の総括 ②今後の活動方針 ③その他
- (10) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第12回) (8月11日)
①「提言」の活用について ②今後の取り組むべき課題の整理
- (11) 史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会 (第8回) (8月22日)

①分科会「記録」について ②第21期分科会の課題について ③その他

第二部担当

(1) 臨床医学委員会 臨床系大学院分科会 (第6回) (7月29日)

①第20期のまとめと今後の展望 ②その他

(2) 基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・
臨床医学委員会合同 IUMS分科会 (第8回) (8月1日)

①IUMS2008イスタンブールへの対応について (報告)

②IUMS2011札幌に向けたプログラム作成 ③NOCメンバーについて

④その他

(3) 生産農学委員会 応用昆虫学分科会 (第8回) (8月6日)

①今後の活動総括と今後の活動について ③その他

(4) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生物科学分科会
(第5回) (8月14日)

①これまでの活動の総括と今後の活動について ②その他

(5) 健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会 (第9回) (8月18日)

①次期 (第21期) の高齢者の健康のあり方について

②シンポジウム「高齢者の健康増進ための学術的アプローチ」の報告書について

③その他

(6) 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会 (第12回) (8月18日)

①男女共同参画に関する調査結果について

②健康・スポーツ科学関連学術連合シンポジウムについて

③第20期健康・スポーツ科学分科会の活動報告について

④第21期への引継ぎについて ⑤その他

(7) 臨床医学委員会 感覚器分科会 (第11回) (8月19日)

①市民公開講座「見るよろこび、聞くよろこびーADV (感覚器障害) の克服に向けてー」 ②その他

(8) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 海洋生物学分科会
(第3回) (8月20日)

①海洋生物学の位置づけ ②今後の活動ポイント ③その他

(9) 基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会 (第5回) (8月22日)

①今期の総括 ②来期に向けての引継ぎ ③秋の合同シンポジウム ④その他

(10) 農学基礎委員会 農芸化学分科会 (第6回) (8月25日)

①第20期の総括と第21期での活動方向について ②その他

第三部担当

(1) 土木工学・建築学委員会 拡大役員会 (第16回) (7月24日)

①年次報告書について ②第20期の活動の総括について

③来期の方針について ④全体会議について ⑤各分科会活動報告 ⑥その他

(2) 材料工学委員会 材料工学将来展開分科会 拡大役員会

(第1回) (7月24日)

①材料工学分野の学術展望に関する検討課題について

②科学技術基本計画における材料工学分野の重点課題 ③その他

(3) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 拡大役員会 (第4回) (8月2日)

①国際対応活動調査について ②第20期国際対応分科会「記録」の取りまとめ

③第21期の国際対応の在り方について ④その他

(4) 地球惑星科学委員会 INQUA分科会 (第4回) (8月4日)

①2015年INQUA大会日本招致について

②第20期INQUA分科会に関する記録・報告 ③今後の活動方針

④第四紀定義問題 ⑤その他

(5) 環境学委員会 環境科学分科会 (第6回) (8月7日)

①環境科学の枠組みと将来展望についての記録案

②第20期分科会の活動の総括について

(6) 情報学委員会 ウェブ・メディア社会基盤分科会 (第5回) (8月8日)

①記録(案)「インターネットアーカイブのあり方と課題」に関する意見交換

②今後の進め方について

(7) 健康・生活科学委員会・環境学委員会合同 環境リスク分科会

(第6回) (8月8日)

①分科会記録案「リスク概念の普及と啓発」について

②分科会活動の総括について ③その他

- (8) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会
(第2回) (8月13日)
①審議課題整理の結果の報告 ②課題ごとの審議 ③来期の計画 ④その他
- (9) 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 (第10回) (8月18日)
①報告書についての議論 ②その他
- (10) 環境学委員会・数理科学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・
報学委員会・化学委員会・若手・人材育成問題検討分科会役員会
(第2回) (8月18日)
①報告書(案)の検討 ②その他
- (11) 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会 (第6回) (8月19日)
①「報告書」の内容と経緯説明 ②各小委員会、WGの活動報告 ③今後の方針
④その他
- (12) 化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 化学工学分科会
(第4回) (8月20日)
①関連分科会の活動状況報告 ②第20期活動総括と第21期の展望について
③その他
- (13) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同
放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会 (第3回) (8月21日)
①提言について ②放射線業務従事者の被爆の把握
③医療分野の二重規制について ④その他
- (14) 総合工学委員会 ICO分科会 (第6回) (8月21日)
①ICO総会報告 ②今度の活動方針について ③その他
- (15) 土木工学・建築学委員会 社会基盤ストックの持続性向上のための技術と
政策分科会 (第4回) (8月22日)
①今後の検討課題 ②その他
- (16) 土木工学・建築学委員会 (第9回) (8月22日)
①第20期の活動の総括・第21期に向けて ②各分科会活動報告
③パネルディスカッション「土木・建築分野から『日本の展望』に向けて」
1) 安全・安心社会の構築(濱田委員)
2) エネルギーと環境(柏木委員)
3) 都市と地域の再生(池田委員)

- 4) 討論
- 5) まとめ
- ②その他

(17) 地球惑星科学委員会 (第25回) (8月23日)

- ①報告書 (案) について ②その他

(18) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 (第6回) (8月23日)

- ①第20期国際対応分科会「記録」について ②小委員会構成について
- ③第21期の国際対応の在り方について ④その他

(19) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 拡大役員会 (第5回) (8月23日)

- ①今後の検討課題について ②その他

4 課題別委員会の開催とその議題

(1) 水・食料と持続可能な社会委員会 (第5回) (8月7日)

- ①委員会の審議の取りまとめについて ②各委員の提言案について
- ③役員の提言素案について ④中間報告の内容及び形式について
- ⑤今後のスケジュールについて ⑥その他

(2) 地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会
(第9回) (8月21日)

- ①報告書 (案) について ②その他

5 記録

第一部関係

文書番号				委員会等名	標題
作成日	委員会No	受付日			
SCJ第20期-200728-20370700-001				「グローバル化と法」分科会	グローバル化の中の法、何が問題か
SCJ第20期-200828-20371000-002				法史学・歴史法社会学分科会	歴史素養テストおよび法史学関連科目開講状況調査関係データ
SCJ第20期-200731-20400100-003				経営リテラシー分科会	経営リテラシーの定着に向けて
SCJ第20期-200805-20390400-004				政府統計・社会統計情報基盤整備分科会	政府統計の改革の更なる進展に向けて—基本計画作成に当たっての提言—

第二部関係

文書番号				委員会等名	標題
作成日	委員会No	受付日			
SCJ第20期-200811-20461100-001				臨床医学委員会 救急・麻酔分科会	救急医療に関する調査報告
SCJ第20期-200820-20462100-002				基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 医学教育分科会	討議の記録 我が国の医学教育はいかにあるべきか

第三部関係

文書番号				委員会等名	課題
作成日	委員会No	受付			
SCJ第20期-200818-20550900-006				総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会	知の統合の具体的方策-工学基盤から視点-
SCJ第20期-200821-20600400-007				環境学委員会 環境政策・環境計画分科会	科学的情報基盤の共有に基づいた、「人・もの・資源・文化」の循環を基本とする環境政策をめざして
SCJ第20期-200822-20530700-008				情報学委員会 E-サイエンス分科会	日本におけるE-サイエンスの推進に関する諸課題

6 サイエンスカフェの開催

(1) 7月25日(金) 18:30～20:00

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：巨大地震の巣を掘るー『ちきゅう』の挑戦

講 師：木村 学（東京大学大学院理学系研究科教授 日本学術会議連携会員）

平 朝彦（(独)海洋研究開発機構理事・地球深部検査センター長
日本学術会議第三部会員）

(2) 8月22日(金) 18:30～20:00

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：「網膜再生ー眼のこと、視力のことご存知ですか」

講 師：高橋 政代（理化学研究所発生再生科学総合研究センター網膜再生医療研究チームリーダー）

本田 孔士（大阪赤十字病院病院長 日本学術会議第二部会員）

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 7月31日 *会長出席
- ・ 8月21日 *会長出席

8 慶弔

◇ ご逝去

八木 健三（やぎ・けんぞう） 7月18日 第9～11期・第4部会員、北海道
大学名誉教授

臼田 誠人（うすだ・まこと） 8月11日 第15期・第6部会員、元東京大学
農学部教授

審 議 事 項

		ページ
1 提言等		
提案5	報告「大学法学部1年生の歴史素養調査と法史学関連科目の開講状況調査」	1
提案6	提言「公文書館法とアーキビスト養成」	2
提案7	提言「出生前・子どものときからの生活習慣病対策」	3
提案8	提言「看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える」	4
提案9	報告「農業経済学分野における研究成果の評価について」	5
提案10	提言「狂犬病対策システムの構築に向けて」	6
提案11	提言「保健医療分野における政府統計・行政資料データの利活用について —国民の健康と安全確保のための基盤整備として—」	7
提案12	提言「子どもの身体活動・スポーツガイドラインの策定」	8
提案13	報告「感覚器医学ロードマップ 改訂第二版感覚器障害の克服と支援を目指す10 年間」	9
提案14	提言「新しい理工系大学院博士後期課程の構築に向けて—科学技術を担うべき若い 世代のために—」	10
提案15	提言「学校教育を中心とした環境教育の充実に向けて」	11
提案16	報告「数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割とその推進の必要性 —不確実性とリスクに挑む科学—」	12
提案17	提言「物性物理学・一般物理学分野における学術研究の質と量の向上のために」	13
提案18	提言「人類の持続性確保に貢献するフロンティア人工物科学技術の推進」	14
提案19	提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて—成育空間の課題と提言—」	15
提案20	提言「数理科学における研究と若手養成の現状と課題」	16
提案21	提言「医療領域に従事する『職能心理士（医療心理）』の国資格法制の確立を」	17
提案22	提言「今後のライフサイエンス・ヘルスサイエンスのグランドデザイン」	18
提案23	提言「「事故による子どもの傷害」の予防体制を構築するために」	19
提案24	提言「変貌する農業と水問題—水と共生する社会の再構築へ向け—」	20
提案25	報告「グローバル化時代における地域研究の強化へ向け」	21
提案26	提言「専門薬剤師の必要性和今後の発展—医療の質の向上を支えるために—」	22
2 国際会議関係		
提案27	平成20年度代表派遣（10～12月分）	23
提案28	ワールド・ナレッジ・ダイアログ（World Knowledge Dialogue）シンポジウム への会員派遣	25
3 シンポジウム等		
提案29	健康・スポーツ科学関連学術連合設立記念シンポジウム	35
提案30	我が国の子どもの成育環境の改善にむけて—成育空間の課題と提言—（シンポジ ウム）	37
提案31	自由主義レジームの多様性と変容の政治過程（シンポジウム）	38
提案32	現代史認識と歴史教育PARTⅡ—沖縄から考える（シンポジウム）	39
提案33	日本学術会議九州・沖縄地区会議地域フォーラム（シンポジウム）	40
4 後援		
提案34	国内会議	41
提案35	国際会議	42
5 その他		
提案36	第20期における分科会活動の総括結果について	別紙
IV その他		

5	
幹事会	62

提 案

報 告

「大学法学部1年生の歴史素養調査と法史学関連科目の開講状況調査」

1. 提案者 法学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 法学委員会法史学・歴史法社会学分科会における報告を別添
のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

6	
幹事会	62

提 案

提 言

「公文書館法とアーキビスト養成」

1. 提案者 史学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 史学委員会歴史・考古史資料の情報管理・公開に関する分科会の提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

7	
幹事会	6 2

提 案

提言 出生前・子どものときからの生活習慣病対策

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

8	
幹事会	6 2

提 案

提言 看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 健康・生活科学委員会 看護学分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

9	
幹事会	62

提 案

報 告

「農業経済学分野における研究成果の評価について」

1. 提 案 者 農学基礎委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 農業経済学分科会のこれまでの審議結果を別添のとおり取り
まとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

10	
幹事会	62

提 案

提言 狂犬病対策システムの構築に向けて

1. 提 案 者 生産農学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 生産農学委員会獣医学分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

1 1	
幹事会	6 2

提 案

提言 保健医療分野における政府統計・行政資料データの利活用について
 ―国民の健康と安全確保のための基盤整備として

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

1 2	
幹事会	6 2

提 案

提言 子どもの身体活動・スポーツガイドラインの策定

1. 提 案 者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会における提言
を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

1 3	
幹事会	6 2

提 案

報告 感覚器医学ロードマップ 改訂第二版 感覚器障害の克服と支援を目指す 10 年間

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会 感覚器分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の「報告」として取り扱うこと

1 4	
幹事会	6 2

提 案

提 言

「新しい理工系大学院博士後期課程の構築に向けて

—科学技術を担うべき若い世代のために—」

1. 提案者 環境学委員長、数理科学委員長、物理学委員長、地球惑星科学委員長、情報学委員長、化学委員長、総合工学委員長、機械工学委員長、電気電子工学委員長、土木工学・建築学委員長、材料工学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 環境学委員会・数理科学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・情報学委員会・化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・電気電子工学委員会・土木工学・建築学委員会・材料工学委員会合同若手・人材育成問題検討分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

1 5	
幹事会	6 2

提 案

提 言

「学校教育を中心とした環境教育の充実に向けて」

1. 提案者 環境学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 環境学委員会環境思想・環境教育分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

1 6	
幹事会	6 2

提 案

報 告

数理科学分野における統計科学教育・研究の今日的役割とその推進の必要性
 ―不確実性とリスクに挑む科学―

1. 提案者 数理科学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 数理科学委員会数理統計学分科会における報告を別添のとおり
 取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の

「報告」として取り扱うこと

17	
幹事会	62

提 案

提 言

「物性物理学・一般物理学分野における学術研究の質と量の向上のために」

1. 提案者 物理学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

18	
幹事会	62

提 案

提 言

「人類の持続性確保に貢献するフロンティア人工物科学技術の推進」

1. 提案者 総合工学委員長、機会工学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

19	
幹事会	62

提 案

提 言

「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて—成育空間の課題と提言—」

1. 提案者 心理学・教育学委員長、臨床医学委員長、環境学委員長、
土木工学・建築学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・環境学委員会・土木
工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会における提言
を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいた
め。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

20	
幹事会	62

提 案

提 言

「数理科学における研究と若手養成の現状と課題」

1. 提案者 数理科学委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 数理科学委員会数理科学振興策検討分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の

「提言」として取り扱うこと

21	
幹事会	62

提 案

提 言

「医療領域に従事する『職能心理士（医療心理）』の国家資格法制の確立を」

1. 提案者 心理学・教育学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会の提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「提言」として取り扱うこと

2 2	
幹事会	6 2

提 案

提言 今後のライフサイエンス・ヘルスサイエンスのグランドデザイン

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 基礎・臨床医学研究グランドデザイン検討分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

2 3	
幹事会	6 2

提 案

提言 「事故による子どもの傷害」の予防体制を構築するために

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 臨床医学委員会 出生・発達分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

24	
幹事会	62

提 案

提言 変貌する農業と水問題 一水と共生する社会の再構築へ向けて一

1. 提 案 者 農学基礎委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 農学基礎委員会水問題分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

25	
幹事会	62

提 案

報 告

「グローバル化時代における地域研究の強化へ向けて」

1. 提案者 地域研究委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 地域研究委員会地域研究基盤整備分科会における報告を別添
のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の
「報告」として取り扱うこと

2 6	
幹事会	6 2

提 案

提言 専門薬剤師の必要性和今後の発展

ー医療の質の向上を支えるためにー

1. 提 案 者 薬学委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 薬学委員会専門薬剤師分科会における提言を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

27	
幹事会	62

提 案

平成20年度代表派遣について（平成20年10～12月分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	第21回CODATA国際会議および第26回CODATA総会	10月5日 ～ 10月10日	6日	キエフ ウクライナ ウッズホール 米国 マプト モザンビーク	長島 昭 横浜国立大学 特任連携会員 蒲生 敬敬 東京大学海洋研究所 特任連携会員 土居 範久 中央大学理工学部教授 第三部会員 唐木 英明 東京大学名誉教授 第二部会員 黒田 玲子 東京大学大学院総合文化研究科声明環境教授・総長特任補佐 連携会員	情報学委員会国際サイエンス データ分科会 第1区分 地球惑星科学分科会 第2区分 ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分
2	2008年度海洋研究科学委員会(SCOR)総会	10月20日 ～ 10月24日	5日	ウッズホール 米国 マプト モザンビーク	蒲生 敬敬 東京大学海洋研究所 特任連携会員 土居 範久 中央大学理工学部教授 第三部会員 唐木 英明 東京大学名誉教授 第二部会員 黒田 玲子 東京大学大学院総合文化研究科声明環境教授・総長特任補佐 連携会員	地球惑星科学分科会 第2区分 ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分
3	国際科学会議(ICSU)総会	10月23日 ～ 10月26日	4日	マプト モザンビーク	土居 範久 中央大学理工学部教授 第三部会員 唐木 英明 東京大学名誉教授 第二部会員 黒田 玲子 東京大学大学院総合文化研究科声明環境教授・総長特任補佐 連携会員	ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分
4	国際科学会議(ICSU)総会	10月23日 ～ 10月26日	4日	マプト モザンビーク	土居 範久 中央大学理工学部教授 第三部会員 唐木 英明 東京大学名誉教授 第二部会員 黒田 玲子 東京大学大学院総合文化研究科声明環境教授・総長特任補佐 連携会員	ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分
5	国際科学会議(ICSU)総会	10月23日 ～ 10月26日	4日	マプト モザンビーク	土居 範久 中央大学理工学部教授 第三部会員 唐木 英明 東京大学名誉教授 第二部会員 黒田 玲子 東京大学大学院総合文化研究科声明環境教授・総長特任補佐 連携会員	ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分 ICSU等分科会 第1区分

28	
幹事会	62

提案

ワールド・ナレッジ・ダイアログ (World Knowledge Dialogue) シンポジウムへの出席

- 1 提案者 会長
- 2 議案 標記国際会議に下記のとおり派遣すること
- 3 提案理由 本会議の重要性及び日本学術会議との関連性の深さに鑑み、日本学術会議を代表する者の出席が必要であるため。

記

日程： 2008年9月10日～13日

場所： スイス・クランスモンタナ (ジュネーブ近郊)

主催者： WKD財団

後援： スイス大学連合、スイス政府

派遣予定者：河野 長 (第三部会委員)

日本学術会議が出席する必要性

本会議は、自然科学工学系と人文社会系との対話という趣旨にもとづき、理科系（自然科学工学系）と文科系（人文社会系）が国際規模での融合推進を図るため両者による対話の実現と有機的な連携・融合を目指すものとして、世界各国の学界、産業界、国際組織等からの参加により様々なテーマによる議論が行なわれる予定であり、2006年について、今回が2回目の開催である。

日本学術会議としても、本会議のそのような趣旨及び目的の重要性を鑑み、また日本学術会議が目指すべき国際活動の一環として、本国際会議の開催にあたり日本学術会議を代表する者が当該会議に出席し意見交換を行なうことが必要である。なお、第1回の会議には、黒川前日本学術会議会長が出席している。

会議プログラム

9月10日(水)

14:00 - 15:00	受付 (コーヒー・サービスあり)
15:00 - 15:10	シンポジウム開会式 歓迎のあいさつ Andre Hurst / WKD 財団理事長
15:10 - 15:25	あいさつ Switzerland, a most fertile environment to grow and propagate the dialogue Mauro Dell' Ambrogio / 教育・研究国家事務局長 (スイス)
	オープニング・セッション Knowledge, dialogue and responsibility 議長: Dame Julia Higgins / インペリアル・カレッジ (ロンドン) WKD 2006 客員教授
15:25 - 15:35	イントロダクション: From the 2006 experiment to the 2008 dialogue Dame Julia Higgins / インペリアル・カレッジ (ロンドン)
15:35 - 15:45	講演 尾身幸次 / STS フォーラム・チェア (衆議院議員、元財務大臣)
15:45 - 15:55	The Knowledgeable and responsible person Francis Waldvogel / WKD 財団事務局長
15:55 - 16:55	Communication and cooperation : Conditions for a dialogue addressing fundamental problems of our time イントロダクション: Edward O. Wilson / 第2回 WKD シンポジウム客員科学者、ハーバード大学 ラウンド・テーブル セッション: Richard R Ernst (ノーベル賞受賞者) / チューリッヒ工科大学 Paul Boghossian / ニューヨーク大学 Veronica Boix-Mansilla / ハーバード大学教育大学院 NN
16:55 - 17:15	休憩
17:15 - 18:00	基調講演 I : Knowledge and responsibility John Sulston (ノーベル賞受賞者) / 科学・倫理・イノベーション研究所・マンチェスター大学
18:00	ウェルカム・カクテル及び懇親会

9月11日(木)

	科学セッション1 Main Topic 1: Collaborative behavior, altruism and conflict: From animal behavior to economics and prevention of violence 議長: NN
9:00 - 9:10	イントロダクション 議長
9:10 - 9:40	Survival Strategies: Cooperation and conflict in animal societies Raghavendra Gadagkar / インド科学研究所 (バンガロール、インド)
9:45 - 10:15	When animals do business Frans de Waal / エモリー大学 (米国)
10:20 - 10:50	Collaborative action and punishment in social and economic environments Karen S. Cook / スタンフォード大学 (米国)
10:55 - 11:10	休憩
11:10 - 11:50	Human conflict: What is missing for prevention / solution Kofi Annan (ノーベル賞受賞者) / 前国連事務総長
11:50 - 13:00	ディスカッション/意見交換 Raghavendra Gadagkar / インド科学研究所 (バンガロール、インド) Frans de Waal / エモリー大学 (米国) Karen S. Cook / スタンフォード大学 (米国) Kofi Annan (ノーベル賞受賞者) / 前国連事務総長 Iris Bohnet / ハーバード大学ケネディー・スクール NN NN
13:00 - 14:15	ランチ
14:15 - 15:00	基調講演II: Scientific enterprise and responsibility Christiane Nusslein-Volhard (ノーベル賞受賞者) / マックスプランク研究所 (チュービンゲン、ドイツ) 【一般公開】
15:00 - 15:15	休憩

	科学セッション2 Parallel study section based on main topic 1: Collaborative behaviour, altruism and conflict : From animal behaviour to economics and prevention of violence			
15:15 - 17:30	意見交換			
	Science and technology in Society Kyoto Forum 議長:尾身幸次 (日本)	Cooperative behaviour, conflicts and socialization : Between nature and culture 議長:Ruth Dreifuss (スイス)	Interdisciplinary cooperative strategies and conflicts in the scientific and academic world 議長:Jean-Pierre Changeux (フランス)	Responsibility and governance of the university: Cooperation between science and society 議長:Ulrike Felt (オーストリア)
17:30 - 18:00	休憩			
18:00 - 19:00	基調講演Ⅲ : Joel de Rosnay / Conseiller du President, Cite des Sciences et de l' Industrie; President Executif, Biotics International (科学産業都市総裁) 【一般公開】			

9月12日(金)

	科学セッション3 Main Topic 2: Collective network knowledge and human individual intelligence: Convergences and divergences 議長:吉川弘之/産業技術総合研究所 理事長(日本)			
9:00 - 9:10	インTRODakション 吉川弘之/産業技術総合研究所 理事長(日本)			
9:10 - 9:40	Expansion of collective intelligence and semantic web: 《new》 human mind? Wendy Hall / サザンプトン大学(英国)			
9:45 - 10:15	調整中 NN			
10:20 - 10:50	Which new communities are emerging around the collective web knowledge technologies? Pierre Levy / オタワ大学(カナダ)			
10:55 - 11:15	休憩			
11:15 - 12:30	ディスカッション・意見交換 Wendy Hall / サザンプトン大学(英国) Pierre Levy / オタワ大学(カナダ) NN Geoffrey West / サンタフェ研究所 所長(米国) NN			
12:30 - 14:00	LUNCH			
14:00 - 14:45	基調講演IV NN			
14:45 - 15:00	休憩			
	科学セッション4 Parallel study section based on Main Topic 2: Collective Network Knowledge and Human Individual Intelligence: Convergences and Divergences			
15:00 - 17:00	意見交換			
	Abstracts Session 議長:NN	Title 議長: Georges Haddad (フランス)	Title 議長:	Title 議長:NN
18:00 - 19:00	基調講演V: Astronomie et Ecologie Hubert Reeves / フランス国立科学研究センター (天体物理学者・科学普及員) 【一般公開】言語: フランス語(同時通訳あり)			
20:00	文化的イベントおよびガラディナー(夕食会)			

9月13日(土)

	総括セッション The Dialogue: Means and outcomes 議長:NN			
9:00 - 10:30	パラレル・ラウンド・テーブル			
	Topic 1 Speakers from topic 1 Member of the Scientific board	Topic 2 Speakers from topic 2 Member of the Scientific board	Topic 1 Speakers from topic 1 Member of the Scientific board	Topic 2 Speakers from topic 2 Member of the Scientific board
10:30 - 10:45	休憩			
10:45 - 11:15	Feedback from the young scientists Feedback from the students			
11:15 - 12:00	Dialogue and responsibility Feedback from the round table chairs and general discussion			
12:00 - 12:20	閉会あいさつ Edward O. Wilson /第2回 WKD シンポジウム客員教授、 ハーバード大学 (米国)			
12:20 - 13:30	Farewell buffet			



WORLD
KNOWLEDGE
DIALOGUE

«Towards a modern humanism».

Dr Ichiro Kanazawa
President
National Center of Neurology and
Psychiatry
Higashi-Kodaira 4-1-1
Kodaira City
187-8502 Tokyo
Japan

April 10, 2008

Personal invitation to participate in the WKD Symposium, in Crans-Montana (Switzerland),
September 10-13, 2008

Dear Dr Kanazawa,

The World Knowledge Dialogue is a Foundation created in 2006 in Switzerland to bridge the gap and promote the dialogue between the natural/technical sciences and human/social sciences - the two cultures - by the organization among others, of transdisciplinary meetings: the first symposium was held in Crans-Montana (Switzerland) from September 14-16, 2006, and was a great success: learning from this first event, we have prepared a major publication to be marketed on July 15, 2008, and are actively preparing the 2nd symposium, to be held again in Crans-Montana (September 10-13, 2008). Starting again from their own revolutionary observations/discoveries, highly selected authorities from "both cultures" will put their own results into the perspective of our present understanding and comment on how other domains of human intelligence can enrich and enhance our knowledge.

As you will see from the attached pre-final program, we have learned from the last symposium 2006 and extended the meeting to 4 days. Two main topics will be presented and discussed, first in main sessions and later in parallel workshops: they include "cooperative behavior, altruism and conflict", and "collective intelligence of the internet and individual knowledge". The major goal of the symposium is to develop new tools and methodologies for an interdisciplinary approach of knowledge and the major problems of our contemporary world.

Major personalities of our scientific and intellectual community will be present and will help us in our debates, including Nobel laureates Christiane Nüsslein-Volhard, Richard R. Ernst, John Sulston; former General Secretary of the United Nations Kofi A. Annan; Pulitzer Prize winner E.O. Wilson; distinguished astrophysicist and author Hubert Reeves.

WKD | GENEVA - SWITZERLAND
Director, Executive Board, WKD
c/o Berger & Van Berchem - Cie
26, Rue de la Corrairie - 1204 Genève
francis.waldvogel@wkdialogue.org
Phone + 41 (0)76 316 10 38
Fax + 41 (0)22 319 10 01

WKD | SION - SWITZERLAND
Project Management
c/o Institut Universitaire Kurt Bösch
CP 4176 - 1950 Sion
gilles.crettenand@wkdialogue.org
Phone + 41 (0)27 205 73 00
Fax + 41 (0)27 205 73 01

WKD | LAUSANNE - SWITZERLAND
Scientific Secretary
c/o Strategos SA
82, Rue de Genève - 1004 Lausanne
jerome.billotte@wkdialogue.org
Phone + 41 (0)21 623 91 13
Fax + 41 (0)21 623 91 12

Again, a special effort will be made to subsidize the presence of young scientists, of leading personalities from the developing world, and this time also of an international representation of students.

As a distinguished member and/or supporter of the scientific-academic community, we have the pleasure of personally inviting you to participate in our second symposium: your long-standing interest and collaboration in this domain are for us convincing evidence that your presence will be a mutually enriching and stimulating experience. Should you wish to distribute and share this information with your colleagues in leading positions within your institution, who express an interest in this important problem of modern science, please feel free to do so.

Since the number of participants is limited to 300 and because we are expecting delegates from all around the world, may we kindly ask you to fill out the attached registration form, including hotel accommodation options, before May 31, 2008, in order to insure you optimal service.

As you will see, the project is supported by many international institutions and authorities, and should rapidly become the main platform for new lines of thought towards a new humanism, and towards an attempt to solve the major problems of our time.

Sincerely yours,



Professor Francis WALDVOGEL
Executive Director WKD

P.S.

This information is also provided by regular mail
Website: www.wkdialogue.org

Encl.

Pre-final program (short version)
List of speakers
Registration form
Hotel accommodation form



REGISTRATION FORM

Title ☐ Professor ☐ Dr + ☐ Mr ☐ Ms ☐ Other (specify) :

Last (Family) name First name

Professional domain

Institution

Faculty / Department / Section

Address

Zip Code / City / State / Country

Professional phone & fax numbers (with dialling code)

E-mail Website (if applicable)

Please indicate which of the following best describes how you first learned of the WKD :

- ☐ Through a participant at the WKD 2006 symposium
- ☐ Through word of mouth from a colleague or acquaintance
- ☐ Through an internet search engine (if possible please specify which)
- ☐ Through a link to the WKD's web site from another URL (if possible please specify the site)
- ☐ Through one of the WKD's partner institutions (please specify the partner institution)
- ☐ Through a WKD sponsor (please specify the sponsor)
- ☐ Through the popular press or audiovisual media
- ☐ Through the scientific press
- ☐ Through a newsletter (please specify which)
- ☐ Other (please enter a brief description)

Registration fee : (please refer to our website for additional information)

Participant

- ☐ CHF 800.- (*€ 510.-) for payments made by the 31st May 2008
- ☐ CHF 900.- (*€ 575.-) for inscriptions paid on or after the 1st June 2008

Young Scientist

- ☐ CHF 400.- (*€ 255.-) for payments made by the 31st May 2008 (for individuals residing outside of Europe or within Europe (EC borders))
- ☐ CHF 500.- (*€ 320.-) for inscriptions paid on or after the 1st June 2008 (for individuals residing outside of Europe or within Europe (EC borders))
- ☐ CHF 200.- (*€ 130.-) for payments made by the 31st May 2008 (for individuals residing in Switzerland)
- ☐ CHF 300.- (*€ 195.-) for inscriptions paid on or after the 1st June 2008 (for individuals residing in Switzerland)

Student

- ☐ CHF 100.- (*€ 65.-)

**The final price is calculated in Swiss Francs. If you choose to pay in Euro, the cost will fluctuate according to the exchange rate.*

Payment of the inscription fee gives free access to the following : (please refer to our website for additional information)

- Participation at all workshops and plenary events
- Personal symposium dossier containing the symposium programme and Abstract Booklet
- Meals → lunch is provided on 11th, 12th and 13th September, Gala evening dinner
- Refreshments breaks during all morning and afternoon session throughout 10th-13th September
- Unlimited free access to WiFi, and access to shared computer and printer facilities
- Arrival and departure transfers by Post-bus between Sion train station and Crans-Montana (hotels and « The Regent » congress centre). Shuttle-bus transfers between "The Regent" and Crans-Montana hotels.

Payment : ☐ directly through the website www.wkdiallogue.ch → payment methods
☐ by invoice (sent to you following your registration)

This registration form should be sent to :

World Knowledge Dialogue - Mrs Karima Amiguet

C/o Institut Universitaire Kurt Bösch

CP 4176 - 1950 Sion 4 (Switzerland) - Fax : +41-27-205.73.01 / Email : karima.amiguet@wkdiallogue.ch



«Towards a modern humanism».

Réservation Hôtelière / Hotel Reservation

Titre / Title		Company			
Nom / Last (Family) name		Prénom / First name			
Rue / Street		Case postale / PO Box			
Code postal / Zip Code		Ville / City			
Pays / Country		Email			
Tél. / Phone		Fax			
Arrivée / Arrival		Septembre/September 2008			
Départ / Departure		Septembre/September 2008			
Catégorie / Category	Nombre / Number	Chambre / Room	Prix / Price CHF	Prix / Price €	Total nuits / nights
HOTEL *****		petite / small single	201.00	€ 126.00	
		Single	284.00	€ 178.00	
		Double	442.00	€ 277.00	
		Double Luxe	484.00	€ 303.00	
		Junior suite	505.00	€ 316.00	
		Suite	526.00	€ 329.00	
HOTEL ****		petite / small single	160.00	€ 100.00	
		Single	216.00	€ 135.00	
		Double	248.00	€ 155.00	
		Appartement 3 lits/beds	550.00	€ 344.00	
		Appartement 4 lits/beds	776.00	€ 485.00	
HOTEL ***		Petite / small single	103.00	€ 65.00	
		Single	144.00	€ 90.00	
		Double	176.00	€ 110.00	

NB: Prière d'indiquer clairement la catégorie souhaitée au moyen d'une croix
Prix en francs suisses et en Euro par chambre/nuite, petit déjeuner inclus
Taxe de séjour de CHF 2.50/jour en sus

Please note clearly the requested category with an X
Price in Swiss Francs and Euro per room/night, breakfast included
Visitor's tax of CHF 2.50/day in addition

Votre réservation est garantie par le N° de carte de crédit ou un dépôt équivalent au nombre de nuits réservées. Dès le 06.08.08 votre carte sera débitée de la totalité du séjour réservé.
En cas d'annulation après cette date, le dépôt perçu ne sera pas restitué.

To guarantee the hotel reservation, credit card details or a deposit, according to the number of nights booked, are requested. As from 06.08.08, your credit card will be charged of the total stay
Should there be a cancellation after this date, no refund will be granted.

Carte de crédit / Credit card		☐ VISA	☐ Diners	☐ Eurocard	☐ American Express
No de carte/Card Nr.		Date d'expiration/Expiration date			
* J'autorise le Centre de Congrès "Le Régent" à débiter mon compte à partir du 06.08.08 * I authorize the Congress Centre "Le Régent" to charge my credit card after the 06.08.08					
Banque / Bank	UBS AG, CH - 8098 Zürich Bénéficiaire / Recipient : CRANS MONTANA TOURISME Compte No. / Account Nr : 268-530019.03J IBAN: CH730026826853001903J				
Date	Signature:				

Centre de Congrès "Le Régent", CP 304, CH 3963 Crans-Montana
Tél. +41 27 484 21 11 - Fax +41 27 484. 21 12
regent@crans-montana.ch - www.congres.ch

WKD | GENEVA - SWITZERLAND
Director, Executive Board, WKD
c/o Berger & Van Berchem - Cie
26, Rue de la Corratierie - 1204 Genève
francis.waldvogel@wkdialogue.org
Phone + 41 (0)76 316 10 38
Fax + 41 (0)22 319 10 01

WKD | SION - SWITZERLAND
Project Manager
c/o Institut Universitaire Kurt Bösch
CP 4176 - 1950 Sion
gilles.crettenand@wkdialogue.org
Phone + 41 (0)27 205 73 00
Fax + 41 (0)27 205 73 01

WKD | LAUSANNE - SWITZERLAND
Scientific Secretary
c/o Strategos SA
82, Rue de Genève - 1004 Lausanne
jerome.bilotte@wkdialogue.org
Phone + 41 (0)21 623 91 13
Fax + 41 (0)21 623 91 12

29	
幹事会	62

提 案

公開シンポジウム

「健康・スポーツ科学関連学術連合設立記念シンポジウム」の開催

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会
健康・スポーツ科学関連学術連合(仮称)
(学術連合の正式名称および役員等は、平成20年9月9日(火)
に開催される総会で決定する。)
2. 日 時 平成20年9月11日(木) 16:30～18:30
3. 場 所 早稲田大学早稲田キャンパス
4. 次 第

開催趣旨

平成20年3月に、健康・スポーツ科学関連学術連合(仮称)が発足した。現在29の学術研究団体が加盟しており、9月9日(火)の総会において本学術連合の正式名称、会則等の諸規定、事業内容等を決定し、具体的な活動を進めることになっている。このシンポジウムでは、本学術連合の設立を記念して、加盟団体の会員が一堂に会し、市民とともに本学術連合の社会的役割とスポーツ・体育・健康科学の未来展望について意見を交換する。

現在、我が国はもとより地球規模において、子どもから高齢者までのあらゆる人々が身心ともに健康でQOL(Quality of Life)の高い日常生活をおくることがきわめて困難になってきている。そのような折、本学術連合の設立は誠に時宜を得たものである。今後、加盟学術研究諸団体がそれぞれの研究成果を持ち寄り、学問間の垣根を越えて、諸問題に対する科学的根拠を明示し方策を提言できるよう研鑽を積むことが望まれる。

テーマ：「本学術連合の社会的役割とスポーツ・体育・健康科学の未来展望」

司会 近藤 良享（筑波大学人間総合科学研究科教授、日本体育・スポーツ哲学会理事長）

田原 淳子（国土舘大学体育学部准教授、日本学術会議連携会員）

16:35～16:40 開会挨拶

学術連合代表

16:40～16:50 学術連合の設立にあたって

加賀谷淳子（日本女子体育大学客員教授、日本学術会議会員）

講 演

16:50～17:10

(1) 本学術連合の社会的役割

1) 体育・スポーツ科学の立場から

小林 寛道（東京大学名誉教授、(社)日本体育学会会長、日本学術会議特任連携会員）

2) 健康科学の立場から

吉岡 利忠（弘前学院大学学長、日本体力医学会理事長、日本学術会議連携会員）

17:10～18:10

(2) スポーツ・体育・健康科学の未来展望

1) ジェンダー研究の立場から

井谷 恵子（京都教育大学教授、日本スポーツとジェンダー学会会長）

2) 身体論研究の立場から

清水 諭（筑波大学人間総合科学研究科准教授）

3) エリート競技スポーツ研究の立場から

平野 裕一（国立スポーツ科学センター主任研究員）

4) 医療科学と健康科学研究の立場から

信川 益明（杏林大学医学部准教授、日本健康科学学会会長）

18:10～18:25 質疑応答

18:25～18:30 閉会挨拶

学術連合副代表

5. その他

同日に健康・スポーツ科学分科会を開催予定

30	
幹事会	62

提 案

シンポジウム
「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて—成育空間の課題と提言—」
の開催について

1. 提案者 心理学・教育学委員長、臨床医学委員長、環境学委員長、
土木工学・建築学委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・環境学委員会・
土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会
2. 後 援 こども環境学会、日本医学会、日本建築学会、日本小児科学会、
(予定) 日本造園学会、日本体育学会、日本都市計画学会、日本保育学会
3. 日 時 平成20年9月16日(火) 13:30～17:00
4. 場 所 日本学術会議6-C(1～3)会議室
5. 議事次第(予定)

趣旨

平成18年2月、第一部、第二部、第三部の学際的な委員会として設置された課題別委員会「子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会」は、我が国の子どもは極めて危機的な状況におかれているとの問題意識により、子どもを元気にする環境づくりのための国家的戦略の意義と必要性を指摘し、子どもの元気を育むための戦略的政策について総合的な提言を行いました(平成19年7月)。土木工学・建築学委員会、心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、環境学委員会の合同で設置された子どもの成育環境分科会では、引き続き、子どもの成育環境の質を構成する要素としての空間的条件を中心に引き上げながら、どのような成育環境が望ましいものであるかをより具体的なガイドラインとして示し、また、それを実現する政府施策のあり方を提言するための検討を重ねてきました。このシンポジウムは、行政施策担当者、学会関係者にも参加をいただき、本分科会提言(案)の報告と提言内容の総合的評価のための討議、および新聞等への発表を通じた社会的アピールを目的とするものです。

プログラム(原案)

総合司会：矢田 努(愛知産業大学大学院教授、日本学術会議特任連携会員)
開会挨拶・開催趣旨：仙田 満(放送大学教授、日本学術会議会員・分科会委員長)

I 講 演(13:50～15:15)

- 1) 「子どもたちが群れて遊ぶ公園・ひろば・遊び道の復活」(仮)
木下 勇(千葉大学大学院教授、日本学術会議連携会員)
- 2) 「多様な人に育まれる住環境整備の推進」(仮)
小谷部育子(日本女子大学教授、日本学術会議連携会員)
- 3) 「健康を見守る医療環境づくり」(仮)
片田 範子(兵庫県立大学看護学部長・教授、日本学術会議連携会員)
- 4) 「活発な運動を喚起する施設・都市空間づくり」(仮)
小林 寛道(東京大学大学院客員教授、日本学術会議特任連携会員)

II 討 論(15:25～16:55)

閉会挨拶：仙田 満(前掲)

6. 定員・参加申込 定員50名

3 1	
幹事会	62

提 案

公開シンポジウム「自由主義レジームの多様性と変容の政治過程」の開催について

- 1 提案者 政治学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議政治学委員会政治過程分科会
- 2 日 時 平成 20 年 10 月 12 日（日） 15：30～17：30
- 3 会 場 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原 1 番町 1－155
関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

4 開催主旨

昨今福祉国家研究と生産レジーム分析の結合が政治経済学における大きなテーマの一つとなっているが、本シンポジウムではそのなかで自由主義レジームの典型とみなされるアメリカとカナダを事例とし、両国における労使関係、労働市場政策の変化がどのように起こったのかについて、さらにそれがレジーム論から見て構造的転換につながるものなのかどうかについて比較検討する。

5 プログラム

司会者：神江伸介（日本学術会議連携会員・香川大学）

報告者：新川敏光（日本学術会議連携会員・京都大学）
「カナダ労使関係の変容と労働運動の再生」

篠田徹（早稲田大学）
「アメリカ労使関係の変容と労働運動の再生」

討論者：森脇俊雅（日本学術会議連携会員・関西学院大学）
阪野智一（神戸大学）

※ 参加費は無料。事前申し込みは必要ありません。

【お問い合わせ先】

小林 良彰（日本学術会議政治学委員会政治過程分科会委員長・慶応義塾大学）
E-mail: ykobayas@hs.catv.ne.jp

32	
幹事会	62

提 案

公開シンポジウム「現代史認識と歴史教育PARTⅡ—沖縄から考える」の開催について

- 1 提案者 史学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議史学委員会、日本歴史学協会
2. 日 時 平成20年10月18日(土) 13:30～17:30
3. 場 所 東京大学教養学部(駒場キャンパス) 18号館ホール
(〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1)
4. 次 第

開催趣旨

昨年の「現代史認識と歴史教育」のテーマを継承し、今年は、昨年後半以来「集団自決」に関する教科書記述が大きな話題になった沖縄の近現代史を取り上げる。日本近現代史のなかで沖縄がどのように位置づけられてきたか、を主報告とし、それとの関連で、中国近代国家成立過程における中華民族概念と周辺の民族との関係、さらに中学校における「沖縄」に関する教育実践報告、の2つの報告を準備し、総体として沖縄近現代史の特質を解明する。

開会挨拶： 桜井万里子(東京大学名誉教授、日本学術会議会員)
趣旨説明： 木村 茂光(東京学芸大学教授、日本学術会議連携会員、
日本歴史学協会歴史教育特別委員会委員長)

I 講 演(13:45～15:30)

- 1) 日本近現代史のなかの沖縄史 戸邊秀明(早稲田大学非常勤講師)
- 2) 中国近代における中華民族概念と中国歴史教科書
田中比呂志(東京学芸大学准教授)
- 3) 沖縄をめぐる教育実践 平井美津子(大阪府吹田市中学校教員)

II 討論など(15:45～17:20)

閉会挨拶： 木畑洋一(東京大学教授、日本学術会議連携会員、
日本歴史学協会委員長)

参加申込方法

事前申し込みの必要はありません。

3 3	
幹事会	6 2

提 案

日本学術会議九州・沖縄地区会議 地域フォーラムの開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議九州・沖縄地区会議
- 2 日 時 平成 20 年 12 月 19 日（金）13:00～16:00

- 3 次 第
テーマ「源氏物語フォーラム：『源氏物語』の舞台裏」

① 講 演

※講師については、今西裕一郎（日本学術会議第一部会員、九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学人文科学研究院教授）ほか 3～4 名を予定

※1 名当たり 40 分程度

② ディスカッション

※ 会場については、公募により決定

3 4	
幹事会	6 2

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
第 6 回教育シンポジウム「理科好きな子どもを育てよう」 ① 主催：応用物理学会 ② 期間：平成 20 年 11 月 1 日（土） ③ 常翔学園大阪センター	応用物理学会 長	第三部
けいはんな光医療産業バレー拠点創出シンポジウム ① 主催：けいはんな新産業創出・交流センター ② 期間：平成 20 年 11 月 27 日（木） ③ けいはんなプラザ	けいはんな新 産業創出・交流 センター長	第二部

3 5	
幹事会	6 2

提 案

国際会議の後援について

1 提 案 者 会 長

2 議 案 国際会議を後援すること。

3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の
行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、
国際委員会(主催等検討分科会)において審議を行ったところ、
適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム第5回年次総会

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム 第5回年次総会 英文：Science and Technology in Society <i>forum</i> (略称：STS <i>forum</i>) Fifth Annual Meeting
開 催 時 期	平成20年10月5日～7日（3日間）
開 催 場 所	京都府京都市（国立京都国際会館）
主 催 団 体	特定非営利活動法人STSフォーラム
共 催 団 体	社団法人科学技術国際交流センター
後 援 団 体 (予 定)	内閣府、文部科学省、外務省、経済産業省、 (社)日本経済団体連合会、(独)科学技術振興機構、 (独)産業技術総合研究所、(独)日本貿易振興機構
参 加 予 定 者 数 [参加予定国]	国外700人、国内300人、計1000人 [72ヶ国・1地域]
会 議 内 容	全体会議及び分科会、議論総括
会 議 議 事 録 等	報告書作成・配布予定
開 催 経 費 の 財 源 [募 金 団 体]	参加費 15,000 千円 寄付金・スポンサー 145,000 千円 その他 20,000 千円 計 180,000 千円 特定非営利活動法人STSフォーラム
申 請 者	特定非営利活動法人STSフォーラム 理事長 尾身 幸次
連 絡 責 任 者	特定非営利活動法人STSフォーラム 総務担当 澁谷 慎吾